

# 綠化通信

2019  
**8月25日**  
年7回25日発行  
第474号

発行所  
一般

一般社団法人 日本植木協会

〒107-0052 東京都港区赤坂6-4-22 三沖ビル3階  
TEL.(03)3586-7361 FAX.(03)3586-7577  
URL : [http://www\\_ueki.or.jp/](http://www_ueki.or.jp/)  
E-mail : honbu@ueki.or.jp

購読希望の方は上記宛へお申込み下さい。年間購読料 5,000円



講習会は令和元年6月2日(日)に東京・国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された。会場では岡・福岡県緑化センターで88名の多数の参加者を集め、1で56名、6月15日(土)に延べて開催された。会場では橋副会長、溝口理事、川原田委員長の挨拶があり、田委員長の挨拶があり、則会長は年々講習会参加者が増えていることは公益目的としての当協会の活動が実際に認知されてきている証左と述べ、また、理事はこの活動を通じ多くの方が樹木への関心を高めていたたきたいと話された。委員長は講習会の内容説明を行い、樹木識別は全体樹形で判断するだけでなく、枝のかたちを見ることが重要と強調された。

# 環境緑化識別樹木識別検定実施委員会

## 樹木識別ポイント講習会

### 第13回環境緑化樹木識別検定

留米筑水高等学校から18名が参加

講習会は令和元年6月2日(日)に東京・国立オリンピック記念青少年総合センターで56名、6月15日(土)に福岡県緑化センターで



吉澤講師　山崎講師　川原田講師　福岡会場に  
を存分に生かした説明を行った。  
は近隣の久留米筑水高等学校から  
緑地科から先生・生徒さん18名が  
参加し、熱



福岡会場にて

コンテナ農場(100万本生産)



コンテナ農場



# オリーブ



## カンツバキ赤花と白花

(株)瀬戸内園芸センター

愛媛県今治市旦甲 248-1 TEL 0898-48-0010(代) FAX 0898-48-8187  
<http://www.setoen.com/> E-mail : setouchi@setoen.com

主な生産物

クロマツ コニファー類 ヤシ類  
カシ類 クスノキ タブノキ  
モチノキ ウバメガシ オリーブ  
カクレミノ クロガネモチ  
サンゴジュ シマトネリコ  
マテバシイ ヤブツバキ ヤマモモ  
レッドロビン オウゴンマサキ  
カンツバキ(赤花と白花) サザンカ

## 令和元年度 第4回理事会を開催

令和元年6月20日(木)  
13時から協会会議室において理事13名、監事3名及び事務局出席のもと第4回理事会が開催された。  
議事の内容は次の通り。

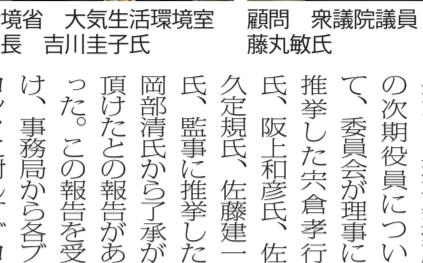
- 平成31年度前期監査について
- 岡部監事から、午前中に平成31年度前期監査を実施した結果、財産及び正味財産増減のすべての点について適正に処理されているとの報告がされた。



ツク推薦理事・監事の推举をお願いする文書を発信することにした。

- 国土緑化推進機構への助成申請について

国土緑化推進機構からの助成が昨年度をもって終了したことから、新たに緑育に関する助成(昨年度同様の金額で)申請を行うことにした。また、今年度は、



顧問 衆議院議員  
藤丸敏氏

環境省 大気生活環境室  
室長 吉川圭子氏

岡部清氏から了承が頂けたとの報告があつた。この報告を受けて、事務局から各ブロックに対してプロ

- 委員会の見直しについて
- 公益目的事業は令和元年11月30日をもって終了することになっているが、当初計画していた収入が計画を上回る収入となつたことから、公益目的財産額の残額が多く、平成31年度に全額消化することを難しいため、前期監査において経緯を説明し了解が得られたことから、内閣府に公益目的事業期間の1年延長を申請することにした。

- 次期役員の推薦について
- 秋山役員推薦委員長から、理事会推舉した秋倉孝行氏、阪上和彦氏、佐久定規氏、佐藤建一氏、監事に推举した吉川圭子氏、顧問藤丸敏氏、事務局より、労働安全衛



集合写真 有石松樹苗園にて

耐えて眠り続いた。次の視察先は常楽酒造様です。熊本地震にも

- 令和2年度通常総会について

会議において、ブロックから委員会のスリム化が提案され、その中で「地域性植物適用委員会」について理事会において検討することになった。検討の結果、委員会担当理事が委員長に経緯等を説明し、来年度から休会もしくは廃止の方向で理解を求めるに至った。

今後、協会の財政が厳しくなつていくことが見えにくさまであるとの意見も出された。

- 令和2年度通常総会について

生産技術・研修 副委員長 川村和泉

(有)田村山林緑化農園・秋田県

コンテナ部会

**熊本県研修報告**

今年のコンテナ部会国内研修会は7月11日(木)~12日(金)に熊本県で行われました。参加人数は34名です。ク長宛て9月末を期限に依頼文書を発信する。推薦された者について「研修・資格委員会」において審査・認定することとした。農林水大臣・林野庁長官感謝状については、「総務・企画委員会」において検討し、対象者について農林水産省に申請することとした。また、協会事業に貢献した者については協会長感謝状について検討をすることとした。創立50周年記念誌については、半世紀の節目にちり、50万本を超える生産を予定されており、50万本をギ・ヒノキなどのコンテナ移植中のスポット苗から先は有石松樹苗園様です。

り最初の視察

集合写真 常楽酒造(株)

(有)石松樹苗園

公園整備地での第3回植樹祭です。

第3回

石巻

復興の森づくり植樹祭

未来につむぐ花と緑のまちづくり 2019

お知らせ

主催/石巻南浜津波復興祈念公園参加型維持管理運営協議会

協賛/石巻市役所、宮城県石巻市観光課、石巻市復興事業部、石巻市森林組合、日本製紙石巻工場、株式会社山大

後援/河北新報社、石巻かほく、石巻日日新聞社、ラジオ石巻FM76.4

開催日: 2019年9月23日(月)秋分の日

場所: 石巻南浜津波復興祈念公園整備地内

参加費無料

手数料: シャツ、ハーフパンツ、靴下、動きやすい服装でお越しください。(バケツなどもあればお持ち下さい)

会場のご案内

●お申込み方法

●お問い合わせ

TEL: 0225-95-1111(内線5520) FAX: 0225-90-8046

QRコード

会場: 石巻市役所、宮城県石巻市観光課、石巻市復興事業部、石巻市森林組合、日本製紙石巻工場、株式会社山大

後援: 河北新報社、石巻かほく、石巻日日新聞社、ラジオ石巻FM76.4

協賛: 石巻市役所、宮城県石巻市観光課、石巻市復興事業部、石巻市森林組合、日本製紙石巻工場、株式会社山大

後援: 河北新報社、石巻かほく、石巻日日新聞社、ラジオ石巻FM76.4

QRコード

会場: 石巻市役所、宮城県石巻市観光課、石巻市復興事業部、石巻市森林組合、日本製紙石巻工場、株式会社山大



シリーズ ちょっと一息、ほっこり出来るような記事を募集しています。是非お送り下さい。



## 蜂～始○物語③ (はちからはじまるものがたり) 分蜂(巣別れ)

友 友 (蜂蜜処・井上園)

春、温かくなり活動が活発になると、新しい女王が生まれ数回巣別れをします。この時出て行くのは、古い女王です。姑がその巣の半分の蜂と蜜を持って新しい環境に移り住みます。人間社会の姑と嫁の戦いは嫁が折れる事で家庭が安定するケースが多いようだが、蜂社会は余命の短い姑が、身上を譲り「未知」の環境にチャレンジするのだ。(女王の寿命は2~3年と言われている)

女王の誕生に合わせて雄蜂も出現します。雄蜂は、交尾だけのために生まられてくるらしい…午後3時頃に巣箱を飛び出して逢引きする約束の場所に集まり処女女王の来るのを待っているとか…巣別れは大抵、雨上がりの風のない穏やか日のお昼ごろ出立なのだが、朝から巣箱の出入口でソワソワ落ち着かない様子で騒いでいる…男の性の侘しさを共感します。

この分蜂群を誘うのに「キンリョウヘン」という蘭の花が効果的です。この花の分泌する成分に集合フェロモンがあり、「日本みつばち」が集まっています。「キンリョウヘン」は、中国南部に自生している東洋蘭で江戸時代以降に日本に入った外来種です。数万年前より日本列島に生息する蜂がそれに反応することは、「日本みつばち」の祖先が大陸から渡って来たと考えるのが主流のようです。数万年という長い年月を経て再会した花と蜂…生き別れた恋人同士のDNAが世代や膨大な距離を超えて出会う物語にロマンを感じずにはいられません。

分蜂するタイミングと開花が一致する不思議…外来種って何だろう…稻も孟宗竹も外来種なのに日本の原風景の様だし…食べ日本料理…教えて中村先生…

近年、キンリョウヘンの誘引物質について研究が進み、人工的なルアーが開発され、花でもないのにそれに哀れにも集まる蜂たちがいます…。

井上友二 植木処・井上園(神奈川)



ネットの中のキンリョウヘンに誘因された分蜂群。巣箱は丸太と重箱のハイブリット型

緑化通信等、会員減少を危惧する向きもありますが、今の社会では自然の流れを感じております。私の考えを少し述べます。小さな社会では「チャレンジ」しない生き残れない。生き残れるものは、変化できる者である。(社会の変化に適応出来なければ生き残れない)今見ているものは過去のものである。限界集落と言われる地方には、多種多様な可能性がある所だと思います。私はそんな限界集落でグランドカバーの生産をしておりま

す。約40年間この仕事をしてきましたが、最初の頃と今では生産内容や方法等大きく変化しております。変化の情報やテクニックは会員の皆様や、現場から築いております。

弊社では市から委託を受け、市道、農道の除草管理も行っています、その道端

が弊社の親株圃場になっていきます。自然の親株場は独り占め、競争相手なしの状態です。私のグランドカバ

ーの親株の多くは山取りも

のなので、限界を逆手に取っているのです、海外から多くの植物が入ってきま

したが、日本の風土に適応

した長続きする植物は限ら

れていました。やはり日本固

有の植物が生き残っている

ようにおもわれます。変化する社会の中で変わ

らないもの、冒頭書いたこと矛盾すると思われるかも知れませんが、元へ帰る

ことが今の時代の変化だ

ます。

昨今2050年問題が話題になっています、その時

私はこの世にいませんが、

緑化産業は益々必要とされ

ます。

赤、橙、黄、木の葉が色

とりどりに染まる紅葉は

まるで自然が届けてくれる

秋のお便りのようである

色彩豊かな紅葉を取り囲む

風景は大自然が描いた芸術

のよさな美しさ、それが地

方にはある、海に囲まれ山

に抱かれた美しい国、人と自然が共に豊かになる。

AI革命は、植木協会を支配することは出来ない、植物には四季(時間)が必要です。私の生産しているつる性植物2mもの等は生産に2年以上の年月が必要です、まして植木は數十年、先代からの贈り物も多いとおもいます、新規参入や他産業からの転換も難しい業界です。だからこそ、植木協会はバラ色なので

## 人口減少と緑化産業

（有）櫻井エンタープライズ・島根県 櫻井 蕃



### 連載「里山植物と景観」

## 第1回 里山の郷愁を誘う植物たち

東京農業大学名誉教授 中村 幸人



◆プロフィール 中村 幸人(なかむら ゆきと)  
1952(昭和27)年3月 東京農業大学名誉教授(博士 理学)  
専門: 植生学、植物地理学、景観生態学  
神奈川県鳥獣総合対策協議会委員、神奈川県公共事業評価審査会委員、国際植生学会群集命名規約委員会委員 他  
横浜国立大学助手、作新学院大学教授を経て平成14年より東京農業大学教授

明治33年(1900年)に作られた横浜市戸塚周辺の迅速図を眺めていると田園の中を東海道線が走っていたのがわかる。車窓からは今では想像もつかない田園の風景が見られたに違いない。谷戸に広がる水田、小道を挟んで丘陵にはクヌギ・コナラの雑木林が広がり、尾根の方にはアカマツが混じる。緩斜面には桑畠やウメやクリの果樹園、畠地また、伐採跡地にはススキ草地や藪が点在したと思われる。スギ・ヒノキの植林は少なく、四季の変化に富んだ植生景観は人々の暮らしの中で、身近な原風景となっていました。

早春の水田にはコオニタビラコ、コハコベ、セリ、ナズナ、ハハコグサなどの春の七草が見られ、秋のススキ草地には秋の七草を含むワレモコウ、オミナエシ、ヤマハギ、キキョウ、ツリガネニンジン、アキカラマツ、ノコンギク、タイアザミが咲き乱れた。豊かな山菜の恵みもあり、ヤマノイモ、フキ、ウド、タラノキ、クサソテツ、オケラ、ツリガネニンジン、オオバギボウシ、アケビ、クズなどを採って食していた。

自然からの恵みはそれだけではない。雑木は薪や炭などの燃料、搔いた落ち葉は有機肥料として田畠に入れられた。田園に広がる植生は草原も森も人の暮らしの中から生まれた代償植生である。本来の自然植生を横浜市戸塚周辺に限ってみればスダジイやタブノキの優占する常緑広葉樹林であり、人の手のつかない鬱蒼とした鎮守の森は心の拠り所になっていた。

人々の暮らしを支える糧は、今風に言えばバイオマスで、それを地産地消という物質循環のもとに回していたのである。収奪しすぎれば循環する量は減り、それに伴って広葉樹林からアカマツ林に、さらに森林から藪に、そしてススキ草地へと退行していくと思われる。歌川広重の東海道五十三次に描かれた浮世絵には、そのような景観を読み取ることができる。人々の暮らしは自然の許容範囲というぎりぎりのところで成り立っていたのである。それは「人と自然の共生」という秩序ある営みの上に出来上がった調和の取れた植生景観で、美しい里山を表現していた。

かつての里山の景観は本来の自然植生と人間の営みのよって生まれた代償植生によって形作られていた豊かな生物社会である。水田にフォーカスしてみよう。水田は春の田起こし、湛水、中干しなどの水の管理が行われ、それに伴って異なる水田雑草群落が出現することが知られている。秋季の刈取り後の水田にはスズメノカタビラ、タネツケバナなどの芽生えが見られ、翌春には、これ



ら2種のほかにもスズメノテッポウ、ムツオレグサ、カズノコグサ、コオニタビラコ、ゲンゲ、ハハコグサなどの一年生草本が繁茂する。ゲンゲは、かつては窒素固定のために入れられることが多く、早春の田がピンクに染まったものだが、今は化学肥料の投入で見られなくなってしまった。

春の水田雑草をすき込み、湛水した水田は夏の盛りと共にコナギ、アギナシ、

チョウジタデ、キカシグサ、アブノメ、ミゾハコベ、マツバヤ、ホタルイなど

の一年生の雑草が入る。水田の厄介者であるが、水田であるがゆえに出現するのであって、水田をやめればこれらの厄介者は姿を消すのである。畦ぬりがされた側面には初夏にカヤツリグサ科短期一年生草本のヒデリコとテンツキが生育する。畦にはヨメナ、ユウガギク、ヨモギ、スイバなどの多年生草本、畔上は踏圧がかかり、オヘビイチゴ、ヘビイチゴ、オオジンバリ、ノチドメ、オオバコなどの短茎な多年生草本が群落を構成している。

このように水田一つとっても田んぼの中から畔まで、人為的な管理の違いによ

て異なる植物群落が四季の変化の中で、異なる生活史を繰り広げ、四季の記憶となって郷愁を誘うのである。

## 関西ブロック研修会開催熊本にて

プロク長 辰巳 広之  
(株辰巳植広園・兵庫県)

高千穂峡集合写真



阿蘇高森の圃場



阿蘇高森の圃場にて集合写真



作庭実習



庭園見学(京都市内)



3級造園技能検定



技能五輪沖縄大会「敢闘賞」受賞

月19日(金)、令和に変わった初めてのブロック研修を久しぶりの地方観察で熊本さて、はじめになぜ熊本にしたかといいますと、去る5月のブロック研修会において一人の役員が松高千穂峡に行ったことがないという一言で高千穂峡が決定しました。せっかく高千穂まで行くなら久しぶりに原点に返って生産地の圃場観察を行うことも決まり、熊本を訪れる事になりました。

梅雨の末期と重なり雨の心配も多々ありました。(何しろブロック長である私が超雨男)

しかし、関西ブロック会員の参加者の普段の行いがいいのか、高千穂峡及び翌日の圃場観察の時は、雨が降らず濡れることなく行えました。

詳しい内容は、まず18日参加者13名は熊本空港及び熊本駅の二手に分かれて集ま

合してそれぞれレンタカーにて待ち合わせの道の駅に集合しました。道の駅にて昼食を済ませて初日の目的地の高千穂峡に向かいました。先にも書きましたが、

行く道中は雨で心配しましたが、現地に到着するとそこ

晴らしい風景を見ることができました。

しかし、ここでも外国人観光客(とくに中国)の多さに驚きました。

その後、今日宿泊予定のホテルを目指して熊本市内へと向かいました。夜は、

この研修会の目的の一つでもある熊本支部会員との懇親会を熊本支部会員12名の

参加のもと、夜遅くまで

活動を行なうことを目표としました。

そこで、生徒たちは、

農業の発展に貢献できる国土の景観や環境保全を実現する技術を学びます。

特徴的なのは、寄宿舎を持つ人材の育成を目指しています。校章

は、踏まれるほどに

## 【沿革】

## 【学校の特色】

## 【環境緑地科の特徴】

## 【造園コース】

## 【収穫感謝祭について】

## 【剪定実習】

## 【造園デザインコンクール受賞】

## 【学校紹介】

## 【未来の業界を担う若者たち】

## 【京都府立農芸高等学校 学校紹介】

京都府立農芸高等学校は、京都府唯一の農業専門高校です。京都府立園部高等学校、京都府立園部高等学校船南分校と京都府立等学校船南分校と京都府立亀岡高等学校農業科を統合し、昭和58年に開校し37年目をむかえました。開校当初は、造園土木科・農業経営科・生活科でスタートしました。現在は、環境緑地科と農業バイオ科で農業の基礎的な学習を外した「農業学科」

群」で農業の基礎的な学習をし、2年次から2学科8コースに分かれ専門的な学習をします。農業バイオ科では、畜産、動物バイオ、植物バイオ、草花、野菜、作物の6コースに分かれ、植物の栽培や家畜の飼育の知識と技術を専門的に学びます。生命の機能を最大限に発揮させる知識を得るとともに、応用技術へと接続

【沿革】

京都府立農芸高等学校は、「農芸祭」

【学校の特色】

【環境緑地科の特徴】

【造園コース】

【収穫感謝祭について】

【剪定実習】

【造園デザインコンクール受賞】

【学校紹介】

【未来の業界を担う若者たち】

【京都府立農芸高等学校 学校紹介】

の専門的な知識や、技術を有する人材を育成し、社会に送り出すことを目的としています。

【造園コース】

住宅庭園だけでなく、都市計画や総合的な土地利用に至るまで、国土全体の景観保全と整備に関する計画・施工・管理を科学的、実現する技術を学びます。

責任感と精神力を持った人材の育成を目指しています。校章

子生徒は、1年間の寮生活を義務づけており、日常の生活習慣や学習習慣を定着させ、スムーズに学校生活を送れるよう支援しています。2、3年生は、希望

者のみが入寮をしており、学校生活の充実と将来の進路実現に向け、それぞが

ます。2、3年生は、希望

者のみが入寮をしており、

学校生活の充実と将来の進

路実現に向け、それぞが

ます。2、3年生は、希望

者のみが入寮をしており、

学校生活の充実と将来の進

路実現に向け、それぞが</

## 緑育出前授業実行委員会 記念樹等贈呈事業審査委員会

## 大阪教育大学附属幼稚園 PTA の「緑育」の取組みが、全国国立大学附属学校 PTA 連合会で「会長賞」受賞

平成31年2月27日に、関西ブロック講師9名、園児約150名、先生と保護者約50名参加により、大阪教育大学附属幼稚園の園庭で、緑育出前授業と記念植樹を行いました。

大阪養育大学附属幼稚園PTA様から頂いた報告書をご紹介します。

平成30年の9月4日の台風21号により、園庭の桜の木など沢山の樹木やフェンスが倒れ、大きな被害に遭われました。長年、子どもたちの成長を見守ってきた樹木で自然豊かだった園庭が様変わりしてしまいましたが、子どもたち、先生、保護者が色々な思いを込めて緑育出前授業と植樹（7種類：サクラ、クリ、ミカン、スマモ、サクランボ、ミモモ、ハッサク）を実施しました。

## 緑育出前授業

緑育出前授業では、植木屋さんの仕事について、身の回りにある植木はどこから来るのか、また植木はどのように育つか、剪定は木の負担を減らすための役割があること緑の大切さなどを分かりやすくお話ししていただきました。質問タイムでは、子どもたちから植木に虫がついたらどうしたらいいのかなど、沢山の質問があり、保護者からは植木の剪定はどのくらいでするべきなのか質問がありました。終始、和やかな雰囲気で行われました。

## 修了記念植樹

緑育出前授業の後、園庭で植樹の説明を植木協会の方にしていただき、植木の植え方、水やりの方法やこれから管理の仕方を教えていただきました。年長児と保護者が一緒に修了記念植樹としてサクラ3本を植樹しました。子どもと保護者が一緒に土をかけ、共同作業しました。植樹後、お水をたくさんあげ、最後に保護者が手作りした樹木の名前プレートをつけました。

## 復興記念植樹

年少児のに年少児と保護者がスマモを植樹し、年中児がクリ、サクランボ、モモ、ハッサク、ミカン2本

を植樹しました。はじめに植樹説明をしていただき、7か所に分かれて、みんな少しづつ土をかけ植樹を行いました。最後に記念プレートをつけました。

## 緑育・植樹を終えて

## 子どもの声

- ゾウムシは木に穴をあけて悪いことをするので、木にいたらとったほうがいいことがわかった。
- 木はお花と一緒に種から植えることがわかった。
- お母さんと土をかけて面白かった。
- どれくらい大きくなるのかな、早くみかんができるといいのに。

## 保護者の声

- 緑育出前授業は、はじめは難しいお話かと思ったが、とても分かりやすく説明してくれて、大人も子どももよく分かった。
- 台風によりたくさんの木を失った年に花となり実となる樹木を頂戴し、大変有り難く貴重な贈呈事業だと思った。このような事業があることを初めて知ったので、他の園や学校にも知ってほしい。
- 子どもたちが必死に土をかけ、水をあげる姿は微笑ましかった。植木協会の方々に優しく丁寧に教えていただいたので、子ども達も自然に質問するなどして楽しんでいる様子だった。

この活動を通じて、子どもたちには樹木を大切にしようという気持ちや、自分たちが植えた樹が10年後、20年後に大きくなり、さらに自然豊かな幼稚園になることへの期待の気持ちが育まれたのではないかと思います。これから子どもたちと一緒に水をやり、草むしりをして大切に育てたいと思います。このような素敵なお活動の機会をいただき、感謝いたします。

大阪教育大学附属幼稚園PTA



記念樹と緑育で受賞



## 特集 シロハラの溜め糞

株式会社 アスコット  
若林芳樹

シロハラという野鳥をご存じでしょうか。10月下旬ごろに日本に渡ってきて4月中旬ごろにはシベリア方面に帰っていく冬鳥で、大きさはヒヨドリほどの腹部が白い以外は全体的に淡褐色の目立たない野鳥です。棲息場所としては低山や平地の樹林や藪の中で、主に落ち葉の下にいる小型の生き物や木の実などを餌としています。

この鳥は都市の中の緑の多い公園や都市緑地などでも確認され、地上で採餌することが特徴で、冬季に静かな公園を歩いているとこの鳥が餌をとるために落ち葉をひっくり返したり表面の土をはねのけたりするカサコソという音で、その存在に気づかれます。しかし、いつも低い植え込みの中にいるので姿を見ることはあまりありません。それでもじっくり見ていると、植え込みから次の植え込みへ脱兎のごとく地上を跳ねながら走る姿を見ることができます。羽の色が地味で遠目には黒く見えるので、野良猫や鼠などが人目を避けて走っているように見えて、一見野鳥とは思えない姿です。



地上で餌を探すシロハラ 写真提供: 松岡雄治氏

らいでした。その枝の下にタヌキの溜め糞とは比べ物になりませんが、写真のような溜め糞が見られたのです。鳥類の場合は枝などに止まっているときに糞をするので、低い枝ならではの溜め糞現象ではないかと思います。

植物の種子散布者としての鳥類にはヒヨドリやメジロなどがよく知られていますが、冬季に日本に渡ってくるツグミの仲間も種子散布者として知られています。シロハラもその例にもれず色々な植物の実を食べて種子散布を行い、植物の分布の手助けをしています。

溜め糞に含まれる植物の種類はそれを確認した時期によってそれぞれ異なります。

シロハラは越冬期にテリトリーを作り単独で生活することが知られており、ツツジやサツキなどの低い植え込みの中に、外敵に見つかりにくく逃げやすい安全な枝を止まり木に決めているようです。止まり木の位置は地上で採餌することが多い性質上低い位置にあり、私の確認した枝は地上高20cmぐら



シロハラの溜め糞 白い種子がノシラン

り、シロハラが渡ってきて帰っていくまでの11月から3月ごろまでに実が成熟する植物の種類数を月ごとに調べてみると、別表のように月ごとにその数に差があることがわかります。

2018.11~2019.03	11月	12月	1月	2月	3月
熟果の種類数	119	99	67	43	29
ヤブランの実の熟期	○～◎	◎	○～×		
ノシランの実の熟期			○	◎	○～×

今回、溜め糞を撮影した公園には、シロハラの生活空間で実をつける代表的な地被植物としてヤブランとノシランが見られました。この2種類の植物の実の熟期について調べてみると、ヤブランは主に年内に成熟し、ノシランは年を越してから成熟します。溜め糞を撮影した日は3月6日でしたので、主にノシランの実を食べていたようです。写真ではわかりにくいかかもしれません、白い種子のやや細長い形やコバルト色の果皮の破片が混入していることからもそれとわかります。

これまでツツジやサツキの根株の中にノシランが混生している姿を見かけることがあります。その理由がわからませんでしたが、これらのことからシロハラが採餌して、根株の中に溜め糞をしていることがその要因の一つではないかという思いに至りました。

形態的にはよく似たヤブランとノシランですが、当然、鳥の種類による好みの問題があるとしても、ヤブランの実はほかにも多くの実を採餌できる11～12月ごろに成熟するため、採餌される確率が小さくなるのに反し、ノシランはほかに成熟している実が少ない2～3月に成熟するため、必然的に採餌される確率は大きくなり、その結果として低木類の根株の中にノシランの混生が多く見されることになるのではないでしょうか。

最後になりますが、ツツジやサツキは根域が比較的浅く、ノシランも同様に根域が浅いので水分や養分の競合が考えられます。そのため、ツツジやサツキの生育の障害となる可能性があるばかりでなく、ノシランは比較的葉の幅が広く草丈も高くなるのでよく目立ちます。管理不良と見られないためにも早めに除草することが望されます。



サツキの根株に生育するノシラン



## ご案内

秋の視察研修会(岡山・香川)栗林公園  
日本列島植木植物園運営委員会

日時 2019年9月25日(水)~26日(木)  
 9/25 (株)清光園芸、栗林公園視察  
 9/26 (有)半田植物園、(株)山地緑化センター、  
 番の州公園  
 集合 9/25 13時 (株)清光園芸  
 解散 9/26 14時頃 JR岡山駅  
 参加費 3,000円  
 夕食・懇親会と宿泊費: 19,000円  
 宿泊先 新樺川観光ホテル(香川県)  
 締切り 2019年9月10日(火)(最低15名決行)  
 申し込み 視察申込み書別紙同封



2020年版協会オリジナルカレンダーについて、NHK出版「趣味の園芸」編集部の協力を得て作成いたしました。  
 会員価格 一般価格 4,000円(税別)  
 申込締切日 1部(最少ロット10部) 5,000円(税別)、送料別途  
 申込書同封

2020年版  
協会オリジナルカレンダー

馬場陸 内山グリーン(株) 福岡県 0943-73-2966

## 日本列島植木植物園 ナショナルプランツ コレクション\*

ギボウシ (*Hosta cvs.*)

ギボウシ(ホスター)は、東アジアに30種ほど分布していますが、その大部分は日本野生の植物です。観賞期間が長く、丈夫な宿根草で、庭の主役をはれるカラーリーフとして、日本が世界へ誇れるパーフェクトプランツです。海外での育種が盛んで、アメリカホスター協会の登録品種数は5,000品種以上あると言われています。

また、1996年からは1) 優良園芸品種であること、2) 地域を選ばず広く人気があること、3) 充分な分布がなされている品種であること、4) 価格的に適度であることの4点を選定基準として、米国ホスター栽培者協会員の投票により、「ホスター・オブ・ザ・イヤー(HOTY)」を毎年選定しており、現在では20品種以上の受賞品種があります。今回はその中から5品種紹介します。

フレグラントブーケ  
(*Hosta 'Fragrant Bouquet'*)  
〔HOTY〕1998年受賞

大型種 花は大輪の芳香花で観賞価値もある 日向での耐久力あり



## サムアンドサブスタンス

(*Hosta 'Sum and Substance'*)  
〔HOTY〕2004年受賞

特大型種 黄緑色の葉は巨大で葉張り1m以上になる  
日向での耐久力あり



## ブルーマウスイアーズ

(*Hosta 'Blue Mouse Ears'*)  
〔HOTY〕2008年受賞

極小型種 丸くしまったブルーの葉が美しい 鉢植え向き

寒河江  
(*Hosta 'Sagae'*)  
〔HOTY〕2000年受賞

特大型種 HOTY唯一の国産品種  
葉は大きく波打ち存在感がある

ジューン  
(*Hosta 'June'*)  
〔HOTY〕2001年受賞

中型種 春の黄中斑と青みがかった緑の縁とのコントラストが秀逸



\*ナショナルプランツコレクションとは、世界的に価値のある植物の種・品種等を属のレベルで集め、植物の多様性の維持や希少種・絶滅危惧種の保護に役立てる事を目的としたコレクションです。

UPL 一年生イネ科雑草から広葉雑草まで幅広く防除する!! 農林水産省登録第22788号

# グリーンアージラン液剤

日本芝用除草剤

製造 保土谷UPL株式会社

販売 石原バイオサイエンス株式会社 ホームページアドレス <http://lbj.ishikweb.co.jp>



ホームページ新設  
△NURSERY YAMADA (川重県)  
<https://nursery-yamada.com/>

## 会員動向



おかげさまで  
皆様とともに  
100年  
創業 大正8年

造園材料販売 造園設計施工

 生駒植木株式会社

代表取締役 生駒 順

〒244-0004 横浜市戸塚区小雀町1805  
 TEL.045-851-1805 FAX.045-852-6068  
 E-mail : matsu-tora@ikoma-ueki.co.jp  
<http://www.ikoma-ueki.co.jp>